

世界の幸せのために

一人一人ができること

福井県立高志中学校

一年A組

伊東 いとう

優実 ゆうみ

私は小学四年生からソーラーカールの研究をしている。ソーラーカールは、太陽熱を利用して、調理する道具である。

私がソーラーカールの研究をはじめたきっかけは、小学四年生の時に参加した講座だった。その実験では成功して目玉焼きが焼けた人と、そうでなかった人がおり、成功する条件は何か知りたいたいという疑問からこの研究がスタートしたのである。一年を通して日時計を作ったり、太陽の高さを測ったりしたこ

とで、天気・保温・時間・時刻・角度調節が成功する条件だと分かった。そして、太陽の高さが二十度以上になると、季節に関係なく、冬でも成功することが分かった。この研究から、ソーラーカールは災害時に利用できるかと考え、研究の幅を広げることにした。災害時には、物資を手に入れにくいので、身近にあるダンボール等を利用してつくる研究が、その中心となった。六年生の夏休み、災害時を想定して一食分の夕食を作っ

た。缶の中に、レトルトカレー。パウチ米。卵・水を入れてソーラークッカーで、約三時間調理した。私は、あたたかい食事を食べて心がほっとし、嬉しい気持ちになった。

研究を始めた頃は、自分の疑問を解決するため、研究した。しかし、研究を進めていくにつれて、自分の研究が困っている人たちの役に立つものにしたいということや、今自分が生きている世界がどうなっているかというところまで考えるようになった。海外では、ソーラークッカーを日常生活に利用している国がある。ナイジェリアでは、貧しいためにパットボトルの水が買えず、水が理由で亡くなる子供が多い。そこで、ソーラークッカーで水を加熱するという殺菌装置を作っている。命をかけて薪を集めなくてはならなかったチリの村の人々は、薪を集める必要のない、ソーラークッカーで安全に調理している。先日起こった西日本豪雨の被災地では、その後よく晴れているので、ソーラークッカーを使う

と、温かい食事をとることや、温ためたお湯
で体を清潔にすることも出来る。日本ではあ
まり知られておらず、日常生活で活用される
機会も少ない。しかしソーラーカーを知
っており、誰でも簡単に身近な材料で作るこ
とが出来れば、災害で困っている人たちのさ
さやかな助けとなると思う。

世界中で多くの人がその地域に合った地
域に手に入る安価な材料でソーラーカー
をつくる。それによって、生活環境や生活の

質が少しずつ変わってきている。私の研究も、
少しでも世界の役に立つ物にしていければと
思う。世界の幸せのために私たちができるこ
と。今の私にとって、ソーラーカーでは
ある。でも、ソーラーカーが全てではな
い。一人一人が良いと思うことを行動に移す
ことが、世界の幸せのために私たちができる
ことだと考える。